

# 水田たより 12月号

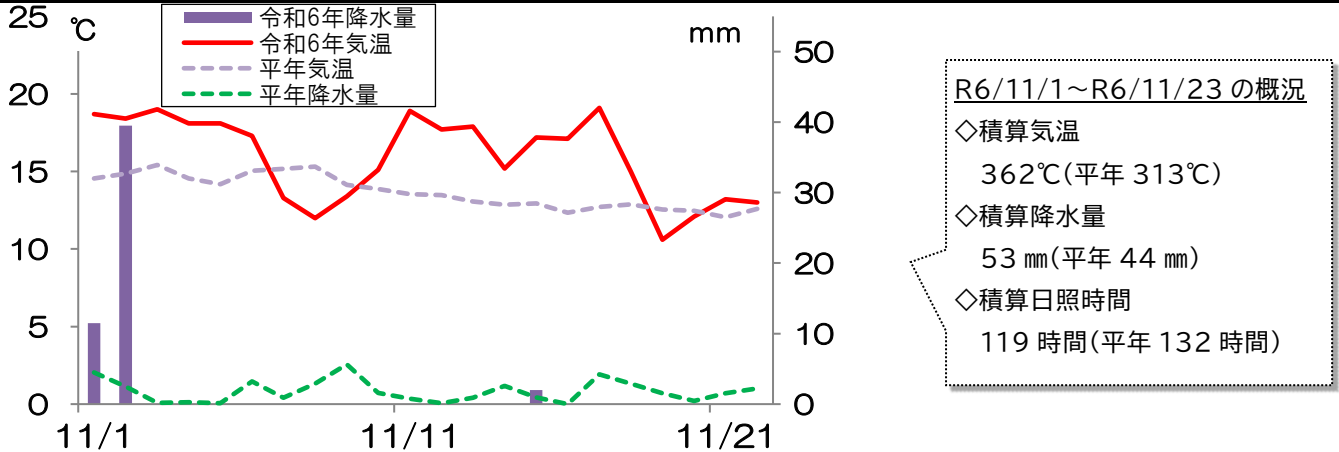
令和6年12月2日

JA みえきた

桑名地域農業改良普及センター

## 麦

### 気象状況



今年は平年よりも**気温が高**なっています。今後1カ月の予報は、気温が「高い」という予想が70%となっています（気象庁1か月予報より）。そのため、後述する麦踏みやつなぎ肥を行いましょう。

## 麦

### 今後1～2か月間の栽培管理

気温が高いと、麦の生育が早く進みすぎてしまうことで、**過繁茂**になって倒伏しやすくなる、早い段階で幼穂を形成して冬場の霜に当たり**凍霜害を受ける**、および早くに**肥切れ**し、生育不良に陥りやすくなる、といった問題が起きる恐れがあります。

過繁茂や凍霜害への対策としては**麦踏み**、肥切れの対策としては**つなぎ肥**が重要になります。

#### 麦踏み

- ・ 3葉期から茎立期（12月上旬から2月上旬ごろ）の時期に、15日～20日間隔で2～3回行う
- ・ 茎立期以降の場合、麦踏みをすると、茎が折れたり、幼穂を傷つけてしまうため、避ける

#### つなぎ肥

- ・ 葉色が薄くなる（SPAD値：40以下）前に、窒素量1～2kg/10aでつなぎ肥を施用する。
- ・ 目安は1月中下旬だが、11月に播種したほ場では、気温によっては12月中に肥切れする可能性があるため、葉色を見て施用する。

※大豆跡など12月以降に播種する場合は、茎数を確保するために、播種量は10kg/10a以上にしましょう。

## 大豆

### 令和6年産でハスモンヨトウが多発

令和6年産大豆では、8月下旬ごろからハスモンヨトウが急増しました（三重県病害虫防除所HP（調査場所：嬉野）より）。管内においても、ハスモンヨトウによる被害を受けたほ場が多く見られました。老齢幼虫では薬剤の効果が低下します。来作では、白変葉や若齢幼虫が確認できたらすぐに防除しましょう。



老齢幼虫  
（桑名普及撮影）



若齢幼虫（三重県病害虫防除所HPより）

## 水稲

### 高温耐性品種「なついろ」

近年、出穂期以降の気温が高く推移しており、白未熟粒の発生が目立っています。  
今回は三重県が育成した、高温耐性品種「なついろ」についてご紹介します。

「なついろ」と「コシヒカリ」の比較

品種	なついろ	コシヒカリ
収穫時期	「なついろ」の方が「コシヒカリ」より約1週間早い	
収量	◎	○
病虫害	◎	△
高温登熟耐性	◎	△
耐倒伏性	◎	△



図2 玄米の外観品質

令和元年度 三重農研成果情報 高品質良食味で栽培性に優れる早生の水稲新品種「なついろ」より

桑名管内において、令和6年産で調査した結果、「なついろ」は「コシヒカリ」よりも約1.1倍多収になりました。

#### 令和6年産水稲収量調査結果

#### 桑名普及センター調べ

品種	移植日	出穂期	成熟期	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (/㎡)	精玄米重 (kg/10a)	千粒重 (g)
なついろ	4月25日	7月13日	8月10日	81	20.6	448	571	22.0
コシヒカリ	4月27日	7月21日	8月23日	93	18.8	411	507	21.0

## 水稲

### 冬起こしについて

令和6年産水稲では、稲刈り後の降雨が多く、秋起こしが遅くなる傾向にありました。秋起こしが行えなかった圃場は、害虫や雑草の発生を助長し、来作に悪影響を及ぼす可能性があります。また、**再生稲は獣のエサ**になり、獣害の原因にもなるので、確実にすき込みましょう。

さらに、近年桑名管内ではスクミリンゴガイによる被害が増加傾向にあり、冬起こしはスクミリンゴガイ対策にもなります。

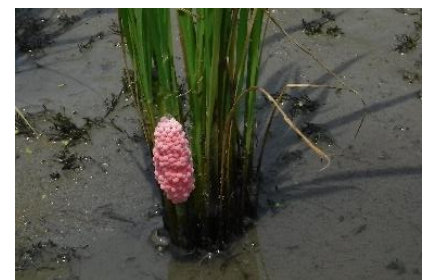
#### ■今からでも間に合うジャンボタニシ対策

##### ○1回目 収穫後～12月

- ・PTO回転（ロータリーの回転）を速く、走行速度はゆっくり。
- ・地表6cmまでに存在しているので浅く起こす。

##### ○2回目 厳寒期（1～2月）

- ・土壌が乾き硬い状態で行う。
- ・慣行の設定で走行し、作土層を確保する。



スクミリンゴガイの卵

#### ■ガス害について

秋起こしが十分に行えなかったほ場では、来作の水稲で収穫残渣が十分に分解されず、作付け後**ガス害（植え痛み）**が発生する可能性があります。例年ガス害が発生するほ場では、できるだけ早めに耕起を行いましょう。

過去の水田たよりは桑名地域農業改良普及センターのホームページでご確認いただけます。「桑名普及」でご検索ください。



桑名普及

検索